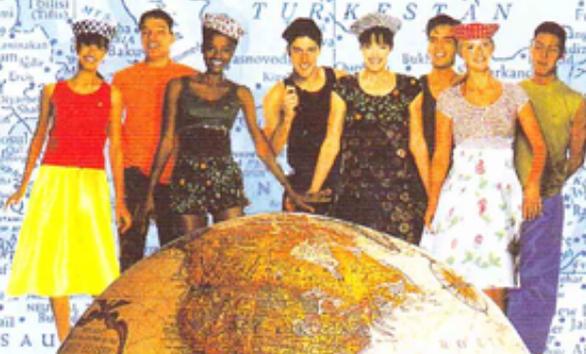


# 学友会 (関西)



1994

Dedicated To International Peace and  
International Understanding



# YO NE YA MA 10

## 国際理解と親善

副ロータリー米山記念奨学会 常務理事 2660地区バスターナー おい た 種 田 憲 次

昨年10月の米山月間に大阪鶴見R.C.へ卓話に行った。例会の後で会長、幹事、米山奨学委員と米山奨学生、それに知合いの留学生を交えて懇談会を行ったので出席させて頂いた。

例会、家族会への出席、家庭への招待などでロータリアンと交流が深まり、国際理解と親善には大いに寄与出来ていると感じるが、留学生間の交流、先輩との話し合いなどは特に留学生の少ない国から来ている者には殆ど

機会がなく寂しく感じている。近隣クラブ等が合同してその様な機会を作って頂くと嬉しいと言っていた。米山奨学生学友会（関西）の活動をPRしておいた。顔を合わせて話し合う機会がなければ理解は進まず、親善も深まりません。『奉仕の機会として知り合いを広めること』…ロータリーの綱領です。

ロータリアンと学友会（関西）会員との間に、米山奨学生であった時と同じ様な国際理解と親善が深まるように努めて下さい。

## 米山翁のご遺志

米山記念奨学会 理事 森 滋 郎

関西学友会会報に何かと言うご依頼を受け、この際米山さんの事を書いてみようと思えます。米山梅吉と言う方は沼津中学を中退して上京して英語を勉強されました。そして20才時単身渡米、いろいろ苦学され在米8年28才時帰国、米山はるさんと結婚、正式に米山家に入籍されました。その後三井銀行に入り彼の人徳と才能と特に英語の力で次々と出世され、大米山翁と為られた方です。その間長男東一郎（20才）、次男駿二（21才）を何れも急な病で喪われました。こんなご不幸を通して若い人々を我が子を視るように慈しむ様になられた事と拝察しております。

現在全日本ロータリアンは彼の遺志をついでこの米山奨記念奨学会を作り今年度は36ヶ国900名の学生に援助することに為りました。私たちはもっともっと多くの学生さん達に手を差し伸べたく尽力して居りますが、思うように捗りません。私は皆様が大変真面目でお国を代表した立派な矜持を持って振る舞っておられる姿を見て大変驚き又、尊敬の念を持って拝見している者です。どうか米山翁のご遺志をしっかり噛み締めていただき、帰国後のお互いの理解ある発展にご尽力下さいますよう、お願いします。

## 「米山の花と実」

R. I. 第2660地区 バスターナー 廣瀬勘一郎

米山奨学生が米山記念奨学会の花であるなら、そのOBである学友は実である。

申す迄もなく、米山奨学生は、優秀な日本留学生の中から厳選され、多くの日本ロータリアンの善意と友情に基づく浄財によって、経済的にも精神的にも暖かな援助と指導を受けて、将来世界的に有為な人材として貢献する事を大いに期待され、祝福されている米山奨学制度の花形である。

その留学生が奨学生生活を終え、いよいよ夫々の道を進むに当たって、今まで各大学の教

官、各ロータリークラブの会員、カウンセラー、地区米山関係の委員、その他多くの友人、知人等から受けた貴重な知識、経験、教養、友情等を糧にして、これから益々人生の年輪を増やし精進する事は勿論、皆夫々が今日あるがために受けた計り知れない恩恵を、米山の同窓、後輩、地域、社会に分ち与える事は今後、学友として当然の義務であり使命であると思う。

その意味において、どうか学友の皆さんはその成果、実をより大きく実らせ、尚一層友

情を深め、思いやりと助け合いのロータリー精神を実践に移して頂くことを切望して止ま

ない。

## 学友とロータリアンの心の絆を大切に

1994～'95第2650地区 米山奨学委員長 京都ロータリークラブ会員 清水 武彦

米山記念奨学会作成の「米山奨学生学友会名簿」1993年度版には65カ国、4,233名が掲載されていますが、学友に送っても3分の1くらいが「受取人居所不明」で返ってくると聞きます。第2650地区内クラブ出身の学友は44クラブ、300名ですが、やはり現住所の記載の無い人が4分の1の76名もあります。これは大変残念なことです。

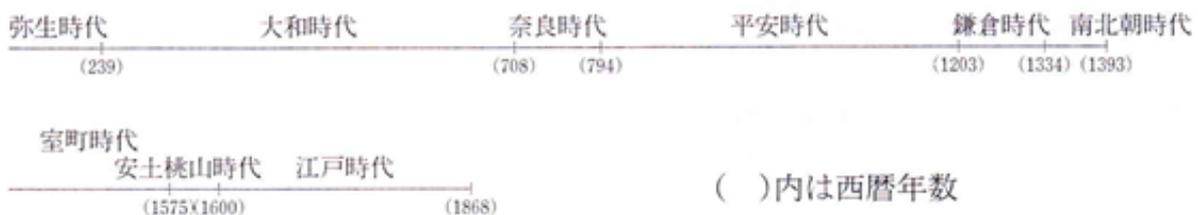
ある時京都クラブの例会にドイツに住む韓国の学友が10年ぶりに訪ねてきました。世話クラブでも終了するとカウンセラー以外の会員の関心は薄れがちですが、学友が訪ねてきてくれるとその人を知らなくても嬉しいものです。米山の成果が眼前にあるからです。

今年度2650地区では、44の元世話クラブに「学友台帳」の整備をお願いするとともに、地区内在住の60名の学友と元カウンセラーを終了式に招待して互いの絆を確かめあうことにしました。1人の奨学生に接しているのはカウンセラーであり世話クラブですが、その背後にはその人を知らないけれども寄付をしている12万人のロータリアンがいるのです。

このパンフレットを読む学友はロータリアンとの絆を大切にしている方々です。後輩の奨学生たちに、すべてのロータリアンとの心の絆を大切にすることこそ米山奨学事業の本来の目的であり、将来の私費留学生を支えることになることを伝えて下さい。

## 「忍術の歴史背景」

R.I.第2660地区 米山奨学委員長 増本 猛



( )内は西暦年数

「忍術」とは忍者の技術のことを言う。この歴史は古く6世紀の頃に発達した「修験道」に始まる。忍者は他国に潜入しては相手国の状況を視察し、必要に応じて放火、暗殺、虚偽宣伝、人心の攪乱、謀略を行う。現代では「スパイ」とも呼ばれる人である。

「修験道」とは山岳信仰より生まれたものであって、日本では山を聖地として考え神格化して崇拝する風習があった。日本の集落が山を背にして作られているものが多く、大和三山（畷傍山・耳成山・天香具山）の如く神聖視している。

奈良県の大峰山、山形県の出羽三山（月山・湯殿山・羽黒山）をはじめ、和歌山県の熊野三山（本宮・新宮・那智）と各地の名山が

修業者の霊場として発展し、山岳に登山、参拝、修業をすることを指す。そして諜報、謀略を利用し常に小をもって大を征するゲリラ戦法・意表をつく戦法を考えた。

其の頃は推古天皇（593）が即位され、聖徳太子が摂政となり、法隆寺が建立され小野妹子が遣隋使として派遣されたときであった。又、隋使裴世清（608）が来日し、再度小野妹子は留学生高句玄理を随行派遣されている。

舒明天皇（630）の頃に隋は亡び唐の時代となり、遣唐使として犬上御田鎌を唐に派遣した。

「7世紀に入って伝教文化の開発と共に僧侶の帰化人も多くなった。百濟の「勅勒」は暦法を伝え、又、高句麗の「曇徴」は紙・墨

彩色の法を伝えて日本人の生活に新しい要素を加えた。」

戦国時代（1477～1573）に入り、京都に近い伊賀、近江の甲賀地方の野武士が忍びの術に長じていたので、各大名諸家はその技術を利用し、忍者として召しかかえ、諸国に伊賀者・甲賀者と呼ばれるものが広がり、その忍びの術を伊賀流、甲賀流と呼んだ。

この時代に伊賀の忍者組織は急に大きくなったが、天正伊賀の乱（1576）により壊滅的な打撃を受けたが多くの忍者はその難をのがれて他国に流れて諸国大名に仕えた。

この時代にポルトガル人が種子島に来て鉄砲を伝えた（1543）。サビエルが鹿児島に来航しキリスト教を布教（1549）。朝鮮より活字印刷・製陶法が伝えられた（1596）。

徳川家康が征夷大將軍となり江戸幕府を創立（1603）し、伊賀流の服部半蔵を頭として残存する忍者を再組織して幕府の隠密集団を作り、家康、秀忠、家光の三代（1607～1649）にわたって全国の諸大名を監視し、非違の摘発・謀略による破かい工作等に従事させて徳川三百年（1603～1866）の基礎を築いたのである。

## 学友会名簿作りについて

第2680地区米山記念奨学会学友会担当委員 大西五郎

第2680地区米山記念奨学会委員として奨学生のお世話をさせていただき、早3年が経過しました。2年の1992年に関西学友会第1回懇談会が開かれました。関西4地区（2640地区、2650地区、2660地区、2680地区）の米山理事、地区米山委員長の懇談会だったので私も参加しました。翌1993年2回目の懇談会は学友会担当委員として出席致しましたが、この2回の懇談会で関西学友会の意義、目的、問題点等の認識を深めた次第です。

関西学友会は、国際理解と親善の輪を広げる推進役としての重責を荷なって活動してい

ます。学友会の更なる活性化には、補助金の助成、学友会事業への積極的な参加の呼びかけも必要でしょうが、地区関係及び地区内在住の米山奨学生OBの名簿作りこそが急務であると考えました。そこで第2680地区米山委員会ではさっそく「米山奨学生OB名簿」の年度内発行を目標に作成に取りかかっております。皆さまのお手元に届く日も近いと思いますので、楽しみにお待ち下さい。

米山奨学生、奨学生OBの諸君が、今後はこの名簿を大いに活用されて、国際交流、国際親善に役立ててくださることを期待しております。

## 奉仕活動に思う

学校法人 清風学園 平岡龍人

21世紀はアジアの世紀だと言われていますが、私は社会へ奉仕するという考え方を気負いもなくアジアの人達が、アジア型の文化として実行しだした時に本当にアジアの時代が来ると思っています。

私の学園に、バーバラ・カーチョフ・藤原という先生がおられました。彼女は日本人の建築家と結婚されたので、ファミリーネームは藤原です。父親はアメリカのドーリーという大きな果物の缶詰会社のオーナーです。日本に一人でやって来て、縁あり清風学園に勤めるようになりました。現在は、同志社女子

短大におられます。日本に来て既に20年以上経ちます。その彼女は清風におられた頃から土曜日は殆ど家におられませんでした。何処に行っているのかと聞いてみたところ、ベトナム難民に英語を教えているという事でした。清風では外国人の先生は土曜日は休みになっていますので、その日を使ってボランティア活動をされていたわけです。外国人の先生方の生活は日本の先生と同じく毎日忙しいものです。ところが彼女だけでなく、多くの外国人の先生方はこの土曜日をを使ってボランティア活動をされています。キリスト教文化は社

会への奉仕を重要な宗教活動として捉えています。それは社会に貧富の格差がある事を肯定した上で、社会的地位の高い人達や経済力のある人達は、社会的な弱者や経済力の弱い人達に奉仕する事が当然と教えているからです。いわゆるノブレス・オブリージです。このバーバラ先生を始めとする欧米人の凄いところは、社会への奉仕を観念の世界で捉えているのではなく、実生活での実践行として実行しているところです。しかも、それを実行している人達は決して、自慢たらしくもなく、

気負いも無く淡々と実行しています。

仏教では布施波羅蜜という修行を教えています。奉仕をさせて頂くというお教えです。奉仕をする方がして貰う方に感謝すると言うものです。きっとこんな考え方を基にした奉仕活動がアジア型になるように思われます。

米山奨学会を通じて、日本と、ロータリーと縁を得られた学友会の皆さんも、この奉仕ということを経験の一部として実行して行ってほしいものです。

## 米山奨学生一泊研修旅行報告

第2640地区 米山奨学委員長 釜下保男

開催日 1993年10月11～12日

場所 静岡県米山梅吉記念館

米山月間に因んでの米山奨学生一泊研修旅行が、今年も昨年同様10月11日、12日の2日間にわたり実施されました。

今回の一行は、玉置ガバナーをはじめ、東条、大丸、大澤の各P.G.、地区各役員、各クラブカウンセラーそれに、奨学生諸君20名を含む総勢38名で新大阪定刻9時36分出発しました。

出発時はもちろん快晴で、名にし負う関ヶ原越えも、雲一つ無く、さぞ素晴らしい富士の絶景が見られるものと期待したのですが、運悪くその周辺だけ雲が立ち込み、前年に続き残念なことでした。

三島駅では、例の如く、長泉R.C.の関係役員方の暖かいお出迎えを受け、そのご案内で米山梅吉記念館に向かいました。翁自作の「いさかいもなく、漫々の青田かな」の句碑にも懐かしく再会し、更に、近くの同じ句を刻まれた墓碑にも詣で、東条大僧正の読経のもと一同線香をさしあげ合掌させていただきました。

記念館に戻り、ここでこれの運営に当たっておられる理事長の坂本氏（元ガバナー）ならびに、常務理事の幾田氏（御殿場R.C.のメンバー）らのご挨拶に続き、長泉R.C.の元米山奨学委員長の永倉氏から「米山梅吉翁は、単にロータリー界のみでなく、地域住民の人々挙げて自慢する偉人である」旨の卓話を頂戴しました。奨学生一同も、この卓話に

より、米山翁について更に感銘を深めたようでした。

記念館に別れを告げ、長泉町役場前にある翁の銅像の前で全員の記念撮影を行なった後バスは、国道1号線を一路東進し十国峠に向かいました。しかし、折角の十国峠も富士山はもちろん、相模湾も霞み、何の美景も得られず、ここへ来た意味があまりないことになり、早々に今夜の宿泊地、熱海のホテル大野屋に向け出発しました。

ホテルに到着するや直ちに、会議室にて例の米山梅吉翁の生涯のビデオを映写され、今回初参加の諸君に翁の認識を更に高めるのに役立てたと思われました。宴会時に、学生の一人一人にその自己紹介を兼ねて本日の感想を述べて貰ったとき、殆どが、翁に尊敬と更に親近感を持ったことを第一にあげ、次いでロータリークラブの価値の偉大さを認識したこと、また、昨日まで見も知らない奨学生相互が親しく一堂に会することが出来て嬉しかったことなど、縷々言ってくれました。

翌朝は、9時15分頃の出発で、最初の見学先、熱海のMOA美術館に参りました。この美術館は、世界救世教教祖の故岡田茂吉師が「優れた芸術は、人々の魂を浄化し、靈性を高め幸福に誘う」との信念のもと、蒐集された美術品が収められ、その入口からは、熱海の裏山をくり貫き、トンネル内の約200mに及ぶエスカレーターにより山頂の本館に至るもので、展示美術品もさることながら建物の規模の雄大さに先ず驚かされます。展示美術品

の中でも、中国の六朝や唐時代の古い出土品など、中国系の奨学生達には、偉大な祖国の文化遺産として、誇らしげに熱い目で観賞しているように見えました。

このあと、予定していた小田原城見学を時間の都合で取りやめ、代わりに湯河原峠越えをドライブして、大涌谷で昼食を摂り、硫黄泉など見学の後、芦の湖畔に至りました。湖尻から関所跡まで遊覧船で約30分間、この間若い者にとっては、写真を撮ったり、互いにふざけあったり楽しい一刻であったようです。関所跡を見学の後、全ての行事が終わり、国道1号線を三島に向かい、全員無事帰阪いたしました。

富士は、今回遂にその雄大な姿を見ることが出来ませんでした。僅かに、それらしい裾野が見えたのですが、バスのガイドから「雲かかる愛鷹山は高けれど晴れば富士の裾野なり」と、見えたのは、愛鷹山の一部であったと笑われました。

今回の旅行で感じたことは、奨学生20名中、丁度半数の10名は昨年度の参加者であったこと、また、男女の比率も10名づつで、偶然のバランスであったが、実に楽しげでスムーズであった。中国本土系の学生も今回4名の参加であったが、2名は昨年度の参加者であっ

たためか、他の国籍の学生とよく解けあっておりました。

泉南R.C.からは、女性の方（宮城会員夫人）が、ネパールの奨学生シャンティ嬢のカウンセラーとして参加され、同性としてよく行き届いたお世話をして下さいました。どちらかと言えば、孤独な彼女にとって大いに心丈夫になったことでしょう。

それから、今回初めての試みでしたが、ホテルで奨学生とカウンセラーとを同室にしたことです。いろいろと話合いの場と融和を計ってのつもりだったのですが、結果的には、若者達は、外へ遊びに出て、遅く帰ってから一部は、所定の部屋へ戻らず奨学生だけの部屋でざこ寝したようです。もちろん、風紀上の問題を起こしたわけではありませんが、カウンセラーの先生方と同じ部屋では、窮屈に感じたのではないのでしょうか。

何れにしましても、全員和気藹々、非常に楽しい研修旅行を過ごしたようで、事故もなく、少しでも国際親善に役立ったかと思い、胸を撫でおろしております。

最後になりましたが、ガバナー・パストガバナーをはじめ、各役員、カウンセラーの皆様、本当にご苦労様でした、厚くお礼を申し上げます。





## 学友会の「秋の懇親会」に参加して

立命館大学 外国人常勤講師 文 楚 雄

10月7日、日曜日、楽しみにしていた学友会の「秋の懇親会」の日だった。今年の秋の懇親会のプログラムは三重県伊賀上野の忍者屋敷の参観と奈良県天理のみかん狩りだった。朝六時、起床。家族三人阪急電鉄京都大宮駅に駆け込み。定刻の八時四十五分より十分ほどはやく集合場所の大阪ホテル阪神に着いた。だれも来ていなかった。あら、集合場所は間違えたかと思い、案内状の地図を確認ながら、ホテルフロントの方に確認した。定刻になってから、みんなぼちぼち集まってきた。知らない人ばかりだった。知っている人がいないなあとと思うと、同じ立命館大学出身のマレーシアの呉賜金君がやってきた。嬉しかった。それどころか、もっと思いもしなかった方がやってきた。大塚賢龍氏だ。話しが長くなるが、私が大塚氏を知ったのはおよそ六年前のことだ。当時、私は交換講師として福井工業大学に来ていた。ある日本の友人を通じて、大塚氏を知ったのだ。そして大塚氏のお宅までお邪魔して、奥様の手造りのご馳走にもなった。その後、私は帰国した。交流も絶えた。大塚氏も米山奨学生だったのが今回で始めて分かった。学友会のおかげで、六年ぶりに大塚氏と再会できたのはとても楽しかった。

9時10分ごろ、いよいよ出発。私は前日の

夜、本などを讀んだりして、遅くまで起きていたので、伊賀に着くまで居眠りをしていた。家内の話しによると沿道の紅葉はとても綺麗だったそうだ。伊賀上野の忍者屋敷、忍術資料館、忍術科学館は子供にはとても面白かった。忍者屋敷を出てから、上野城に登ろうとしたが、もう時間がなかった。昼食後、みかん狩りの途に向かった。

みかんには私は特別に興味がある。私の故里中国湖南省は有名なみかんの産地だからである。私が勤めていた大学は湖南省の省都長沙市の岳麓山という山の麓にある。大学のキャンパスのまわりにみかん畑がいっぱいある。住んでいた大学教職員のアパートのすぐそばもみかん畑である。朝や夕方にはみかん畑を散歩したり、みかん畑の山に登ったりして、とても楽しかった。

11月ごろはみかんのとれる季節となる。農民はみかんを担いで、キャンパス正門あたりにある自由市場で売る。当日にとれたばかりのみかんだから、実に美味しい。湖南省の人達はみかんを1~2キロの単位で買うのではなく、大体5キロ以上の単位で買う。とくに季節が過ぎ去ろうとする時に、もっと沢山買っておく。旧お正月（2月の始めごろ）まで保存しておく。保存方法はやはり伝統的な方

法による。化学薬品などは一切使わない。

みかんの季節になると、全国から各種の会議が湖南省長沙市に殺到してくる。みかんの価格もグリーンと上がる。交通も混雑する。とくにこの時期に、中国全国の鉄鋼注文会議が長沙で開かれる。全国の売り手、買い手が一齐に長沙に集中する。中国では基本的に鉄鋼が不足している。鉄鋼を確保するためにはどれだけの人が集まってくるのか想像しやすいだろう。商売と関係のない人間にとっては大変な迷惑である。そういうことで、私はみ

かんに対して特別な感情があるのである。みかん狩りの農園で子供と食べくらべもした。お腹いっぱい食べた。食べすぎのせい、それとも熟しきれないせい、その後、歯が一週間ほど痛かった。

京都に来てからのこの2・3年、あまりみかんを食べなかった。今年子供が来ているし、有田みかんなど、安売りのとき、10キロ単位で2回ほど買った。久しぶりに、湖南省の買方をした。

## 奨学生の頃

京都産業大学法学部教授 香島明雄

春の気配が近づくと、世は卒業式シーズンである。一般の学園より一足早く、2月26日、ロータリー第2650地区の米山奨学生終了式が京都で開かれた。終了生の歓送会と米山学友交流会も併せて開催されたので、招かれて出席し、多くのロータリアンや現役の奨学生とお会いし、学友とも久闊を叙することができ、愉快であった。

他の地区はいざ知らず、京都近辺において、この種のイベントはどうも新しい趣向らしく、少なくとも私にとっては初耳である。もう20数年前になるが、自分の時は世話クラブの例会で、一応終了の旨が報告され、記念品として目ざまし時計が贈呈されたが、「式」といったフォーマルな雰囲気ではなかった。その際、求められて簡単なスピーチを行ったが、時間をオーバーして司会者に注意されたことを憶えている。想起する度に恥しさを禁じ得ない。第2650地区が米山がらみで、会合を主催するのは、昨夏に続いてこれが二度目らしいが、出席して免に角、いろんな面で今昔の感を深くした。

まず奨学生の帰省先が非常に多彩になったことが挙げられる。エキスポ'70をはさんで私が二年間奨学生であった時分、奨学生の殆どは台湾と韓国からの留学生だったと記憶している（R.C.からプレゼントされた入場券で万博を韓国の奨学生鄭君と一緒に見学し、Korea館で韓国料理を御馳走になったことが記憶に新しい）。それが、今度の第2650地区の名簿では、中国、東南アジア、アフリカ、

オセアニア、ヨーロッパなどからの奨学生が加わっている。殊に中国の進出ぶりには隔世の感があるといっても大げさには過ぎるまい。というのも、20数年前のわれわれの頭には、社会主義国にはロータリークラブが存在しないし、第一、ブルジョア社会の産物たる同クラブと社会主義は相容れないのではないかと、といった「独断と偏見」が自明の前提としてこびりついていたのである。

名簿といえば、奨学生のそれと並んで、参加学友の名簿も配付された。それを一瞥して或る「重大な」発見をした。自分だけが二つの世話クラブをもっていたのである。奨学生になった当初、私は京都東R.C.に属していた。このクラブは京都大学をその地区内に擁していた。従って歴代の京大の多くが同R.C.のメンバーであったがため、多数の留学生を抱える同大学が米山奨学生を輩出させたのは自然の成行きであり、彼（女）らが京都東に「所属」するのもこれまた地理的必然であった。その結果、「過密状態となり、面倒を見る上で不都合が生ずる心配があるので、別のクラブに移って欲しい…」大体このような理由で、私は山科R.C.へ「転属」となった。確か奨学期間をあます所数ヶ月の頃だったと思う。例会の場所も都ホテルから清水寺附近のホテルに変わったが、私を担当された方がその後、クラブを離れられた事もあり、山科R.C.との連絡がいつしか疎遠になっていった。申し訳なくまた寂しい思い出の一齣である。

様変わりと言え、奨学金の額もそうである。記憶が定かでないが私の頃は確か二万ないし三万円台であった。当時ビールの大瓶が百円一寸位であったが、給料取りになった今と較べても、それほど飲み代をケチった記憶はない。山科R.C.の場合は例会に出席して月々の奨学金を頂戴していたのだが、京都東の場合は“Pay day”が例会と日を異にしていた。八坂神社前に事務局があり、決まった日に受領するのだが、その都度短いエッセイの提出が義務づけられていた（山科に移った後については思い出せず、この制度は取り止めになったのかも知れない）。暫くしてこれらエッセイの抜粋が文集として刊行された（確かスナップ写真を添えて）が、それには意外なメリットが付随した。小学校以来の旧友林錫璋君が文集に登場していたのである。それまで同君が来日していたことも知らなかったのだが、このことが後の再会の機縁となったのは言うまでもない。米山奨学金の思わ

ぬ「功德」と言え、重光世洋君と再会できたことも忘れる訳にゆかない。同君の創立にかかる関西学友会への参加がなければ、台中一中の同窓交歓がかなり遅れたことは疑いを容れなかったからである。

以上、終了式の様変わりに因んで二、三の随想を書き綴ったが、奨学生の選考事情はあまり変わっていないのではなかろうか。種々のファクターが考慮の対象になるのは今も昔も同様だろうが、学位取得の目途が一つの基準ということをよく耳にする。私の場合も面接の主査を務められた故平沢興先生（元ガバナー・元京大学長）がその点の確認をされた。「奨学期間中に取れます」旨の返事を申し上げたのだが、結局それは空手形に終わった。生来の不敏とスローモーションで、先生の御在世中に朗報をもたらすことができなかった。先生の温顔を思い浮べるにつけ、今もって心残りである。

## 古寺巡礼 — 黄檗山萬福寺 —

学友会副会長 吳 賢龍(大塚)

さる10月10日体育の日に、「古寺巡礼」を行った。京阪電車の宇治駅で現地集合し、駅から約1キロを歩いて宇治川の中州にある十三重石塔近くの広場で琵琶湖からの疎水である宇治川の清流を見ながら、昼食を取った。

昼食後、まず有名な平等院に向かった。平等院は11世紀の中頃（西暦1052年）平安時代後期、藤原氏の全盛期に宇治関白頼通公が、父道長公の別荘を改めて寺院にしたものである。日曜吉日に付き、拝観者が多いため、列を並んでやっと、全員が国宝の鳳凰堂に入って、平等院の解説者の説明を受けた。鳳凰堂は天喜元年（1053）建立された阿弥陀堂で、平等院創建当時の唯一の建物である。軽快で優美な姿は平安貴族たちが夢にまで見たあこがれの極楽浄土の宮殿なのである。鳳凰堂の内部の周囲の扉や壁には、九品来迎図が描かれている。これは、完成された「やまと絵」として現存する最古のものである。鳳凰堂を出て本堂前の史跡名勝庭園で記念撮影を行った。

続いて京阪電車に乗り黄檗駅で下車し、今

回「古寺巡礼」の主目的地である黄檗山萬福寺を拝観した。中国の明朝様式の諸堂寺院建築が整然とたたずむ黄檗山萬福寺は、日本三禪宗（臨済・曹洞・黄檗）の一つ、黄檗宗の大本山である。ご開山は、中国明末の臨済宗南を代表する密雲円悟禪師や費隱通容禪師の法を受け継ぎ、臨済正伝32世となられた隠元禪師である。

当日、運がよくお天気が快晴で、気温も快適であった。しかも、萬福寺内では宇治茶の煎茶まつりが行われていて、多くの和服晴姿の日本女性が日本古来の煎茶席を実演していた。茶葉や茶道の茶碗・道具の売店も沢山出店されて、活気があふれてにぎやかだった。萬福寺を一周し、本堂内で本尊の前に、礼拝を行った。

隠元禪師は29才の時、中国福建省にある黄檗山萬福寺で出家され、17年ものあいだ各地で修行されたのち中国黄檗山の住持となられた。その後、再三にわたって日本より招請を受けられた禪師は、ついに1654年、長崎の唐寺の住職として渡来され、臨済正宗の大法

をかかけて如法に行じられた。隠元禪師東渡のしらせに日本の各地から大勢の修行僧が禪師のもとへ駆け参じてきた。

日本の地に黄檗山を開かれた隠元禪師は、1664年、高弟の一人、木庵禪師に二代目住持をお譲りになられ、松隠堂へ隠退なされた。63才で日本へ渡られた隠元禪師は寛文13年(1673)、82才で遷化された。その時、後水尾法皇より大光普照国師の号を賜わった。

以来、50年ごとの大遠諱には、その当時の朝廷や皇室より国師号や大師号が追諱された。

江戸初期から中頃にかけて黄檗山歴代住持のほとんどは中国から渡来された僧侶がたである。したがって朝夕のおつとめはじめ、黄檗山寺院で行われる儀式作法や法衣梵唄には、よくその伝統が受け継がれていて、今日の中国や台湾、東南アジアにある中国系寺院で執り行われている仏教儀礼と共通しているようである。

次回に訪れる時には、境内にある中国風精進として知られている「普茶料理」を賞味したいと思っている。

## 貴重な体験

### 黄 蘭 翔

1988年4月に、来日してから、いつも日本と台湾との比較にばかり、目を向けており、せっかく様々な国々からきた留学生が多いのに、他の国々のことには無関心であった。先日、奈良短期大学の学園祭のとき、私は留学生としてパネリストになり、『留学生からみた日本の再発見』について、発言を求められた。私は当然ながら、台湾の現状を紹介したり、セミナーの中の話題である日本女性の社会的地位について、熱心に発言したりしていた。しかし、あるオランダ人の女性の発言は私にとって、非常に印象的であった。

彼女は来日して、3ヶ月間足らずであるが、大変興味深い話を聞かせてくれた。彼女は自問自答のかたちで、「日本は科学の技術や経済などはすでに世界の最先端に達している、その上伝統的文化を未だに大切に守り続けることができるのはなぜでしょうか」ときいていた。彼女は日本とオランダとを比較してみた。「オランダの歴史を振り返ってみれば、国際的にはフランスやドイツやイギリスからの侵入者が多く、国内的には時代毎に政治革命が多かったので、特徴ある文化の成長する時間がなかった。したがって、日本人ができることはオランダ人にはできない。」彼女が懇切丁寧に話してくれたせいでもあるのだが、この話をきいて、私は急にオランダとの距離が大変短くなった気がする。

彼女の発言の内容は身にしみるところが多かった。なぜならば、台湾の状況はオランダの状況と似ているところが多いからである。

台湾の歴史を振り返ってみれば、オランダの占領、清王朝の消極的な支配、日本の植民支配などの時代を通じて、我々の祖先は清の子民になったこともあれば、日本の皇民になったこともある。現在にしても、中国の強大な脅威の下で、すでに健全な国家になっているとはなかなか言えない。オランダと同じ理由で台湾特有の文化が成長する時間はなかった。

さらに、彼女の発言は私に「日本にきている留学生は自分の祖国のことだけではなく、さまざまな国々のことにも少し注意を払えば、異なった発想や考え方を勉強することができる」という啓示を与えてくれた。即ち、何でもない日常生活からもえるものが、沢山あることを彼女は教えてくれたのだ。今までの私は日本のことを勉強することでもう精一杯で、余裕がないと思っていたが、実は必要なことはただ心の扉を開くだけであることに気づかなかった。私はいつも台湾のことを「一生懸命に」外国の人に紹介したいと思っていたが、その留学生のセミナー中は、珍しく外国の留学生の発言を丁寧にきいていた。家に帰ってきて、その日の収穫は豊富であったことを再認識した。

オランダ人は昔、台湾を占領したことがあるが、実は彼らも外の国々に占領された経験があることは、台湾人である私にはかなり意外であった。以前は私はオランダ人について何の印象もなかったが、そのセミナーを通じて、同じ人間同士で同じの経験、同じの心をもっていることに気がついた。この経験は私

にとって非常に貴重であった。

## 日本人と天気予報

林 云 鉉

私は1990年度～1991年度の2年間、米山記念奨学会の奨学生として京都南クラブでお世話になった。

語学の問題を克服しながら、勉強はもちろんのこと、文化の違いから来る問題、住居の問題、経済的問題などすべてのことを自分一人で判断して、解決しなければならないということから生じる不安と心配は韓国人だけではなく、すべての留学生達の共通の悩みであろう。このように様々な不安と悩みを抱えながら生活している留学生達に現在、日本国内で外国留学生向けの奨学財団としては、数少ない制度と思われるカウンセラー制度を設け、あらゆる面で積極的に世話をしてくれる、米山記念奨学会の奨学生に選ばれ、お世話になったことに対し今も光榮に思っているし、お世話になった方々に深く感謝している。特にこの紙面を借りて、私のカウンセラーであった西山豊太郎様からほんとうに2年間親しく接して下さったこと、また卒業後も相変わらず付き合いさせていただいていることに、あらためて深く感謝したい。

日本の生活では多く経験したが、そのうち、日本人の生活、気質と密接に関係があるように思われる挨拶言葉に関するものに対して考えて見たことを紹介したい。国の地理的位置と気候は人々の生活様式だけではなく、あらゆるものに影響を及ぼし、独特な形で現れると言われている。その中でも挨拶の言葉はその特徴をはっきりと現していると思う。

来日して間もない時に、いくつか驚いたことと不思議に思ったことがある。その中の一つが日本人は非常に天気に関心が高いということである。人と会うとまず

「こんにちは」。次は「今日はいい天気ですね」。「今日はかなり寒い(暑い)ですね」。また「雨ですね」。

大体このような挨拶が続く。私もそれに合わせるように挨拶はするが、なぜ日本人はこれほど天気に関心が高いのだろうか。テレビを見てもかなりの頻度に天気予報が出てく

る。しかも地域別に降水確率と気温を詳しく説明している。わざわざ明日の天気に関心を持たなくても一時間位テレビを見れば明日の天気は分かってしまう。これは日本人の生活に天気がどのくらい重要な位置を占めているかを物語っていると思う。(しかも気象衛星のおかげでそれだけの正確な気象情報を提供できるということも大きいと思う)それに比べ私の国、韓国では人と会うと

「食事は済ませましたか。あるいは夕べぐすり眠れましたか。」

と挨拶する人が多かった。これは一般民衆の生活が貧しくて、相手が一日三食、食べているかどうか心配であり、また社会的に混乱な毎日が続き、夜の間、無事であったかが気掛かりであったからである。(もちろん最近も経済的にも相当ゆとりもでき社会的にも安定していくに連れ、かなりこの挨拶の言葉はなくなったとは思いますが)これを見ても人の挨拶は一般生活と密接な関係があると言えるもので日本人の生活そのものに天気はかなりの比重を占めている事に間違いのないと思う。

来日したばかりの時に、駅の周囲に並んでいるマンションのベランダを電車の中から見ると、干している布団や洗濯ものがまるで色とりどりの大きな壁画のように見えたことがある。また、部屋探して不動産屋に行った時に、自分の国ではほとんど聞いた事もない、間取りに対しての詳しい説明や大家さんがこの一階の部屋は日当たりが悪いから他の階よりいくら安いと言ったことに対してほとんど理解できなかったのである。しかし、日本での生活が長くなるに連れて、なぜ日本人がそれほど天気に関心が高いのか、また毎日、外から帰ってきたら風呂に入るのか、畳部屋がなぜ多いのかなどが少しは分かるようになってきた。

韓国のソウルと東京の気象データを見れば、東京地域の1951年から1980年まで年平均で降水量は1,460mm、日照時間が1,492時間、湿度は66%である。それに比べ、ソウルの場

合は1988年に降水量が760mm、日照時間が2,374時間、湿気61%である。これだけのことを見ても東京の方がソウルより湿気が高いことがよく分かると思う。実際、私の経験で下宿の押入に湿気取りを入れてもかびがはえたり、壁に掛けて置いた服が小雨に濡れたようになってしまって驚いたこともある。冬になると、部屋に入って寒気を感じるたびに自分の故郷の部屋が恋しくなる。韓国にはオン

ドがあるために、部屋に入ると足元から暖かいし、部屋全体が暖かく、また横になると体全体が暖くなる。(オンドルというのは床の下にパイプを均等に引き、その中にお湯が流れるようにして部屋を暖めること)

このように気候と生活環境とは国民の気質と密接に関係していると思う。日本人の性格を理解する鍵は天気予報にあるかもしれない。

## 随 筆

林 文 彬

日本に来て、もう7年目になる。この長期間の体験により、人生及び自国のことを考えると感慨ひとしおである。なぜなら、先進国で学習する目的は先進国の長所を自国へ伝えることであるからだ。時折、台湾に帰省するとき、台北の町と日本の町と比べると、その意欲がさらに強まる。

日本に来る前、少し日本語を学習し、日本に関する情報には特に留意した。そのうち、一番印象深いのは台湾の作家柏楊の書いた本「醜い中国人」であった。彼は「台湾人はいつも“日本は現在のように高度な経済成長を遂げたのは南北朝鮮戦争のおかげで、アメリカは大量な物資を日本から買い求めたからである”と思っているが、実は日本が今日のように発展しているのは優秀な民族性によるのである。」と言っていた。いま、日本にいて、この言葉を振り返ると、作家柏楊の言葉に本当に深い意味を感じる。日本での人間関係に

は非常に秩序があり、真面目に努力する人こそ尊敬される。従って、不当な行為により利益を獲得する人は少なく、多くの人々は黙々と努力している。これは国が進歩する一要素だと思う。

最近、台湾でも文化と道徳について重視してきており、特に李登輝大統領は台湾の大統領に就任して以来、台湾人の道徳の高揚に力を入れ、李大統領自身も中華文化総会の会長を務めている。中国でよく言われる「活到老、学到老」という諺は、生きている限り学び続けるという意味である。確かに、世界のいろいろな知識は大変広くて、しかも、科学の進歩もとても速いから、それらの知識はわれわれが一生掛かっても学び切れない。しかし、我々留学生はここに留学してきて、単に科学を学ぶだけではなくて、もっと日本の社会道徳を学ぶべきだと思う。

## 友達は大切に

学友会副会長 劉 嘉 雄

「友達は大切に」はだれもがわかっているような言葉ですが私は改めてこの言葉の意味を実感できたのです。

10年ほど前に、同じく関西学友会日本語学校で知り合った1人の友達ですが、彼もさりげない親切さと心の暖かさに身にしみ、友達という素晴らしさを知りました。当時、日本に来たばかりで何もかもわからなくて孤独の私にとってお互いに言葉がわかる友達は最

大の財産でした。この縁でお互いに色々なことを助け合って勉強にも励みながらこの新しい環境を乗り越えて来ました。神経質な私は瑣細なことが気になって眠れない夜さえありました。いつも彼が私の頭のスイッチを切り替えてくれて一つ大きな精神の支えでした。一年間、日本語を学んだ後で彼は勉強する為にカナダへ飛び立ち、それからアメリカへ渡りました。その後、彼とは一度も会っていな

かったのですが、この間思い掛けない事で彼からの便りが舞いこんで来ました。本当にあまり突然の事で底知れない感激を覚えたのです。

人間は時代と環境の生き物で、4、5年も離れていると会っても話が弾まないことがあるといいます。私達は色々な原因で10年間お

互いに連絡を取れなくなったにもかかわらず彼は積極的に私の居る場所を探したそうです。彼のような素晴らしい友人こそ私にとってこの現実の社会を営んで行く生きる力にもなると私はつくづく思います。どうぞ皆様にもぜひお互いに縁で、結ばれた友達を大切にしましょう。

## 「印鑑の話し」

神戸大学医学研究科 姚 重 華

私は中国上海からの留学生で、現在神戸大学医学研究科大学院生4年生です。専攻は病理学で、主な研究内容としては細胞内の遺伝子が働いている状態についての直視的な発見方法です。いわゆる電子顕微鏡の下に遺伝子の研究方法です。

さて、ここで生活の感想をひとつお話しさせていただきますと思います。印鑑は日本と中国共通文化の一つとして数千年の歴史を持っていますが、古代では一般庶民が印鑑を持つことはできなかったのです。これは権力を示すものです。現在、一人で数本を持つことも珍しくありません。日本は中国に比べて、印鑑の重要性と使う頻度はもっと多く見られます。現在中国では印鑑より本人のサインの方が重要です。わたしは子供時代に父親の印鑑箱が大好きでした、なかには集めた印鑑が百本ぐらいありました。父親の印鑑は芸術品として明朝体以外に隷書、篆書、行書及び絵もありました。素材も玉石、銅、銀、木、象牙などいろいろあり、形とサイズもそれぞれ違いました。最大の銅印は1キログラム以上あるそうでした。わたしは医者になってから、病院から黒い水牛材印鑑を配られました。当時、毎日外来患者を50人ぐらい、一方病棟側にも12人の患者を治療していました。処方せんとか病歴記録などに医者としての確認のため、毎日この印鑑は200回以上も使われていて、印鑑がなければ、たいへん不便であったと思います。しかし、銀行では印鑑でなくても、本人のサインと身元証明書があれば、問題はありません。日本では名前印鑑は町のどこでも売っていますが、中国ではすべて印房でつくってもらい、フルネームのものしかありません。中国では印鑑の登録もまったく

ありませんし、西洋と同じようにサインは正式のものと認められます。わたしは日本で印鑑を忘れて、大事な用事ができなくなった経験が数回ありました。随分苦労したので、今は毎日ポケットの中に置いてます。身分証明及びサインですべて本人の確認ができる場合も必ず印鑑が必要ですが、これはなかなか理解できないものです。そこで、中国古代の物語を思い出しました。ある人は靴を買うために、糸で自分の足を測りました。さっそく山を越えて、川を渡って、町の靴屋に着きました。しかし、残念ですが、この糸を家に忘れてしまいましたので、再び、このひとは山を越えて、川を渡って家に帰り、糸を持って、また山を越えて、川を渡って、今度やっと靴を買うことができました。靴屋さんはこのひとの様子を見大笑いしました。自分の足がなによりも正しいじゃないですか、と言いました。どんなことでも、やりすぎたら、よくないと思います。現代日本ではいろいろな役割の違う印鑑があり、便利なシャチハタもあります。印鑑を作る技術も非常に高い。また、印相学があり、印鑑の材料と文字から吉凶判断、持主の運命に左右することがあるそうです。日本の印鑑文化から、印鑑を作る技術以外に、仕事の真面目さとサービス精神を習うことができます。

中国は数千年の歴史があり、豊富な文化を持っていますけれども、戦争、災害が多かったため、現在、中国人にとって誇るものはわずかに歴史と文化の二つの言葉しかありません。私たち中国留学生としては外国の先進技術を勉強して、国の発展のために努力します。米山ロータリークラブでお世話になったこの2年間は、わたしの人生と家族全員にとって、

非常に有益でありました。これからの人生はロータリーの奉仕精神を持って、人類の健康

のために一生懸命努力するつもりです。

## 米山奨学生に選ばれて

滋賀大学（世話クラブ-長浜R.C.、カウンセラー-吉田精一）米山奨学生 黄 敏 利

米山奨学金は日本のさまざまな奨学金の中で最も難しいと言われておりますが、私は幸いにも米山奨学生になることができました、本当に嬉しく思います。

この1年間、私はいろいろな経験をしました。自分の不注意のため、めいわくをかけてしまったこともよくあります。例えば、去年合格通知書をいただいた時、指導教官や世話クラブに連絡をしなかったことや、引っ越しの住所変更をきちんと知らせなかったことなどがあります。これらの失敗を反省し、今度再びこういうことをおこさないように十分に注意していきたいと思えます。しかし、知らず知らず失礼なことをしてしまうこともあると思えます。この場合は、囲りにいる方々に助言をいただければ、嬉しく思えます。

私は普通の奨学生より早く例会に参加しました。それは現在お世話になっている長浜クラブの友好クラブである台北東門クラブが昨年5月、日本を訪れた際、私は自分の微力を尽して、通訳させていただきました。この時、私は日台両国の交流に役立つよう頑張りまし

た。このことは私にとって、非常に勉強になり、また自分が役に立つことができ、とても嬉しく思いました。今度このような機会があれば、積極的に参加していきたいと思えます。それは私がロータリークラブに対し、唯一の恩返しであると言えるでしょう。

去年10月の米山月間に、私は台湾の住宅について、長浜、南彦根、湖北三つのクラブにスピーチをしに参りました。その時私は日本の住宅について、木造建物は台風や津波に弱いという欠点があるのに、なぜ日本人が木造住宅を好むのかという疑問を抱きました。当時、ある湖北のロータリーアンは木造の家は風通しがよく、また自然状態に近いので、人間の体に健康的であるといったことを詳しく説明してくれました。ロータリーアンの教えが私の日本住宅の見方を新たにさせました。

今年のロータリーの国際大会は台北で行われる予定ですが、残念ながら私は台北に帰ることができません。私は参加することはできませんが、今度の国際大会が成功を収めることを心よりお祈り致します。

## 国際人たるエチケット

学友会副会長 尹 淑 鉉

最近、大阪には中国人、韓国人の留学生以外に、西欧からの留学生がよく目立つようになった。大阪市立大学には、中国人留学生が最も多く、(およそ200人)、韓国人留学生が約40人くらいで2番目である。最近では、カナダ、イギリス、フランス、イタリア、スリランカ、マレーシアなど、その国籍は多様である。従って、留学生に勉学のために経済的支援を頂いているロータリー奨学生の中にも、さまざまな国からの留学生がいる。留学生は、自分の所属クラブを中心に、日本人(主にロータリーアンとその家族)とはもちろんのこと、これらさまざまな国からの留学生と交流をす

る。学問の場である学校を離れて、まさに代表的な国際親善の実践場と言えるだろう。

このように早いテンポで国際化する現代社会で、とくに留学生の果たす役割は大きい。多様な国籍を持つ留学生は、当然のことながら多様な言葉で話す。母国を離れ、日本語を自由にしゃべれるまで、留学生は大変苦勞するわけである。時には、ホームシックにもかかる。

その時、国の人に会え、国の言葉をしゃべれることは、どれほどうれしいことだろう。頭の中で常に適切な単語を選びながらしゃべらなくてもいいのである。心がすっきりさえ

するだろう。でもちょっと待って！ 隣に他国からの人、あるいは、日本人がいるか気を配って欲しい。その場のみんながわかる共通

語（日本では日本語になるだろうが）を使う思いやり、これこそ国際人たる基本的なエチケットではないかしら。

## 米山ロータリー奨学金制度の感想文

李 寧發 (LY PHAT)

私はベトナム元留学生リーファットと申します。米山ロータリー奨学金制度についての感想文を書く前に少し私の経歴にふれて置きましょう。

私は1972年2月3日サイゴンから大阪にやって来ました。一年間日本語を習ってから姫路工業大学応用化学科に入学致しました。大学二年の終りごろサイゴン政府が陥落されました。その前に米山ロータリー奨学金に申し込みました。私は私費留学生で政府がない。もちろん仕送りも断ちました。多分この理由で私が奨学生に選ばれたと思います。

みな様もご存じと思いますが、米山ロータリー奨学金制度はその名の通りに国際ロータリークラブの米山翁が自分の私財をお出しになって奨学金制度を作りました。そのあと全国ロータリークラブはその遺志に基づいてその制度を維持して参りました。日本全国の有名大学に在学する修士課程と博士課程の留学生を選考して2年間奨学金を与えます。その時は毎月4万円の奨学金でした。まさに砂漠の中の一滴の水のように私はその2年間アルバイトをしなくても勉学できました。その奨学金制度は私の一生にとって忘れられない制度でした。これがなければおそらく私の人生は大きく変っていたでしょう。

姫路工大を卒業してから大阪大学の大学院の修士課程に進学致しました。ロータリー奨学金のおかげでその後私は修士、博士の5年間、日本政府の奨学生になられて毎月多額な奨学金をいただいて勉学しました。

その後ご縁があって藤岡運送(株)に入社して専務取締役となって現在に至っております。入社して2年後すなわち今から11年前に大阪長堀橋ライオンズクラブに入会致しまして現在も継続してがんばっております。入会してから私は米山ロータリー奨学金をいただいたことで積極的に、ライオンズクラブの会員達にPR致しました。それが実ってやっと2年

後ライオンズクラブも奨学金制度を設けるようになりました。選考内容として毎年私の母校大阪大学の留学生を対象に2名ずつ毎月7万5,000円を渡すことになっております。私は毎年選考委員長か委員に任命されております。今まで中国、台湾、韓国、ペルーなど10名ほどの奨学生に支給して来ました。今年はクラブの事情もあって、1名月10万円となっております。この奨学金制度は今後他のライオンズクラブへ普及して多くのクラブが奨学金制度を作っていただくように願っております。現在、確かに全国多くのライオンズクラブがなんらかの形で留学生の世話をしているそうです。

私のクラブではそのほかに留学生のために、緊急資金援助基金を設けております。大阪大学の留学生に限らず、在阪して困っている学生に手をさしのべ、毎年2、3名を世話しております。そのほかに里親制度としてお正月に会員の家族に2、3日短期間招待しております。これを機に現在はすっかり留学生達の日常困難問題にとりくんでいる所です。しかしクラブでは多くの留学生の面倒を見ることには限界があり、できればたくさんのクラブがもっと留学生の現状を認識していただいて応援していただければと切望しております。

5年前、ライオンズクラブの関係で私は台湾の女性と結婚して一人の娘を設けております。

私達の一家はキリストの信者で近くの中華教会にたくさんの留学生交流を深めております。

日本の世界において物価が非常に高い国です。日本で留学する学生は大変苦しい環境でくらすなければなりません。最後に、ロータリークラブとライオンズクラブをはじめ多くの団体ができるだけたくさんの留学生に世話していただくことを元留学生の一人として心をこめて願いたいです。

住宅問題、アルバイト問題を含め彼らのために解決してあげなければならないと考えております。

日本人はとっても親切で、日本はとっても住み良い国であることを思わせていただきたいのです。

## 『ロータリー』素晴らしい考え方

顧 海 松

最初、米山奨学金を申し込もうとした時、この奨学金を貰うのは毎月例会に参加しないといけないし、数回の報告書を提出しなければいけないなど、結構うるさいといわれた。中国の“文化大革命”で育てられた私にとって、昔のナンセンスの例会のイメージと想像されて、ちょっと嫌な気になった。でも、この奨学金は非常に魅力で、我慢して例会に出てもいいと思い、奨学金を申請した。合格の通達が来た時、喜びながらも、これからの例会にどう参加すべきかという不安もあった。

第1回目の例会では、緊張の中で、食事が済んだ。そして、卓話に入り、面白いテーマだった。“人間誕生の神秘性”で、卓話者は産婦人科の先生だった。赤ちゃんの誕生の過程を説明して下さった。長女が生まれたばかりの私にとって、非常に勉強になった。それからの卓話も様々なテーマで、専門家はいろんな知識を教えて下さった。会報委員長の小中義博様をお願いして毎期の会報を頂き、出られない卓話をも読めるようになった。卓話を楽しみながら、学問として勉強してきた。しかも、例会でカウンセラーの山本武男様と小中義博様が私を紹介したり、アドバイスしたりする。以前の不安が無くなって、私にと

って、非常に楽しい例会になった。

知識は我々学生だけに重要なことではなく、経営者にも欠かせないものである。良く考えてみたら、なぜロータリーは大きな規模を持つかと言うと、ロータリーの活動が幾つかの素晴らしい考え方で行なわれていると思う。ロータリアンは貴重な時間をさいて例会に参加して、奉仕を行なうとともに、役に立つことが得られる。卓話を聞いて、自分の知識が増え、いつか仕事場に役立つでしょう。これは非常にいい考え方と思う。ロータリークラブの入り方も一つの例である。職場の人間同士は友達になれ、お互い尊敬し、いい関係を作って、助けてやる。日本のロータリアンはさらに米山奨学金を設立し、我々私費留学生を助けている。私達を通じて、アジア諸国の若者にロータリー精神を広げていき、これはロータリーに対して大きな貢献となる。ですから、一つの組織（或は活動）が発達するために、何が素晴らしい考え方を打ち出さないといけない。

我々奨学生は卒業したら、学友会のメンバーになるが、これからも、ユニークなかつ素晴らしい考え方で、有意義な活動に参加していきたい。

## 私とロータリークラブ

李 惠 儀

私は現在兵庫教育大学、学校教育学部3年生で、去年の4月から、ロータリー米山奨学生になり、日本のロータリアンと出会うことができました。私の伯父は台湾の屏東扶輪社（台湾ではロータリークラブを扶輪社とよび、ロータリアンを扶輪社社員とよんでいます。）の一員なので、小さい時からよく伯父と一緒に扶輪社の懇親会や、月見大会やいろんな交流会に参加しました。当時まだ小

学生だった私はロータリークラブの本当の宗旨や意味など全然分かりませんでした。ただ集会へ伯父について行って食べたり遊んだりするのが楽しいなあと思っていただけでした。成長するにつれ、伯父についてロータリークラブの活動に参加しなくなってから、ロータリアン達の社会への貢献を見てやっとちょっとだけロータリークラブのことが分かるようになりました。

米山奨学生として勉強することができ、毎月ロータリークラブの例会や家族旅行などでロータリアンとの交流までできて、本当に幸せだと思っています。米山奨学生になってもうすぐ1年になります。この1年間に、留学生だけではなく、日本の方でもなかなか体験できないこと、例えば本物のもちつき、鶴を見ること、かに尽くを食べること、日本の伝統的結婚式を見ることなどを体験させていただきました。おかげさまで日本の文化、習慣、風俗などがより一層分かってきました。

また、ほかの奨学生と一番違うこと、一人一人の奨学生に世話クラブとカウンセラーがついていることにもとても感謝しています。

故郷と離れて一人で異郷で生活している私にとって、世話クラブは私の日本の家で、カウンセラーは私の日本の親です。いろんな相談にのってくれたり、世話してくれたり、本当に心細い私を支えてくれました。感謝したいことは言いきれないほど多くて、私の感謝の心も中国語のあることわざ「筆墨難以形容」のように（ペンとインクでは形容できないという意味です。）いっぱい、いっぱいあります。だから行動で表わすしかありません。それはこれから力を尽して頑張っていく、将来はロータリアンの皆様のように社会、人類、世界の力になることです。

## あなたのお便りをお待ちしております

毎年4月になると、米山奨学生を終了された方々には、母国に帰られる方とそのまま引き続いて日本で勉学研究される方、または日本の会社で就職される方など、さまざまな方がいらっしゃいます。いずれにおいても、お互いに連絡を取り合うことが何よりも大切だと思います。ご承知の通り、この大阪において元米山奨学生で組織されている学友会（関西）があることをお忘れにならないで下さい。終了されたお方で関西に在住予定の方は自動的に無条件でこの会の正会員になる資格が与えられます。是非とも会員になっていただき、本会の活動に参加していただきたく存じます。

学友会の目的は、元及び現米山奨学生間の交流を通じて親睦及び互助を促進し、国際親善と世界平和、そして米山記念奨学会の事業の発展に寄与することといった目的をめざしております。

この会は1986年5月に創立し、現在に至っております。全国では、関東、北関東（筑波）、北九州と関西の4つの学友会があります。それらの地区に在住する予定のお方はその地区の学友会に参加していただければ結構だと思います。

どうか、この学友会という皆様の器（うつわ）があるということを忘れないで下さい。

学友会の運営にあたり、ご指導とご協力を

米山奨学生学友会（関西） 会長 許 紫 芬

いただいている関西4地区のロータリー米山地区委員長、学友会担当委員及び学友会の役員の方々に深く感謝致しております。

会員の住所・勤務先に変更があれば、財団法人ロータリー米山記念奨学会（〒105 東京都港区芝公園2丁目6番3号ABC会館ビル）へ変更登録し、同時に米山学友会（関西）の会長及び幹事長にもご一報下されれば幸いです。

会員の皆様のご参加と年会費（2,000円）のご納入をお願い致します。皆様のますますのご活躍とご健康をお祈り致します。



関西地区以外の学友会の連絡先は下記の通りです。

- 学友会（関東）：会長 チョードリ、  
イスカングール・アメッド  
〒168 東京都杉並区方南町1-39-4  
☎：(03) 5376-4830
- 学友会（西日本）：会長 笠 征  
〒814 福岡市早良区百道3-17-15  
☎：(092) 822-8216
- 学友会（北関東）：会長 司 勤  
〒305 つくば市天王台2-1 筑波大学一  
の天学生宿舎34-208 ☎：(0298)56-7664
- 台湾扶輪米山会：会長 黄 仁安  
中華民國台湾省  
桃園縣楊梅鎮幼獅路2段55巷6号  
世聯倉運股份有限公司 董事長  
☎：(H) (03) 482-3711 (O) (03) 494-6161
- 韓国学友会：会長 林 隆義  
大韓民国  
SEOUL特別市麻浦区東橋洞172-13  
惠聖総合病院 院長  
☎：(02) 334-4642

1993年度米山奨学生学友会関西地区役員名簿

- |  |   |
|--|---|
| <p>会長 許 紫芬 (山岡 由佳)<br/>〔大阪東R.C.〕<br/>甲子園大学 経営情報学部<br/>専任講師<br/>〒550 大阪市西区江之子島<br/>1-8-21-411<br/>☎：06-445-1090<br/>Fax:06-445-1090</p> | <p>D-2680 吳 賢龍 (大塚 賢龍)<br/>〔堺東R.C.〕<br/>甲子園大学経営情報学部 助教授<br/>〒532 大阪市淀川区三津屋北<br/>1-6-20<br/>☎：(H)06-301-3358<br/>Fax:06-300-5271</p> |
| <p>幹事長 王 石明 〔大阪西北R.C.〕<br/>〒606 京都市左京区<br/>北白川山元町2<br/>☎：075-702-2445</p>  | <p>幹事 王 充志 〔西宮甲子園R.C.〕<br/>学術 明光証券<br/>〒659 芦屋市津知町2-20<br/>三佳文化1F北<br/>☎：(H)0797-22-8405<br/>(O)06-261-6481</p>                     |
| <p>副会長 D-2640 韓 賢燮 〔堺南R.C.〕<br/>㈱友電舎 研究開発部<br/>〒591 堺市新金岡町<br/>3丁目5-14-309号<br/>☎：(H)0722-58-6294<br/>(O)06-465-1663</p>               | <p>庶務 王 幸珍 〔堺R.C.〕<br/>Kaneta株式会社<br/>〒661 尼崎市東園田町<br/>9-1-14 園田グリーンパーク<br/>608<br/>☎：(H)06-498-6449<br/>(O)06-282-3511</p>         |
| <p>D-2650 劉 嘉雄 (福山 嘉一)<br/>〔奈良R.C.〕<br/>シンロン ジャパン株式会社<br/>専務取締役<br/>〒658 神戸市東灘区深江浜町<br/>124-307<br/>☎：(H)078-413-9473</p>              | <p>書記 吳 淑芬 〔神戸須磨R.C.〕<br/>(株)コベルコ 科研<br/>〒651 神戸市中央区山本通<br/>2-13-10<br/>☎：078-221-5160</p>  |
| <p>D-2660 尹 淑鉉 〔大阪難波R.C.〕<br/>大阪市立大学 社会学 博士課程<br/>〒558 大阪市住吉区杉本<br/>1-12-11 (静風寮)</p>  | <p>会計 王 昭文 〔大阪船場R.C.〕<br/>大阪市立大学 人間福祉学<br/>〒556 大阪市浪速区敷津西</p>   |

308 4070

2-9-2 八阪ハイツ807

☎: 06-636-1070

Fax: 06-636-1070

親睦 李 静淑 [奈良西R.C.]

大阪市立大学経済学研究科 博士課程

〒558 大阪市住吉区我孫子

4-10-21 ハイム我孫子306号

☎: 06-692-9571

鄭 明富 [堺中R.C.]

大阪芸術大学 建築学科

〒601 大阪市平野区喜連西

4-7-19

☎: 06-701-5759

国際交流 于 水 [大阪鶴見R.C.]

大阪市立大学 民事法学

〒537 大阪市東成区深江北

1-5-3-302号室

☎: 06-976-1966

蔡 昭慧 [堺おおいずみR.C.]

大阪教育大学 教育学研究科

(帰国)

許 文九 [岸和田R.C.]

大阪府立大学 経済学研究科

地域経済 博士課程

〒558 大阪市住吉区杉本町

1-7-23

☎: 06-609-3109

会計監査 莊園福松 [神戸R.C.]

税理士

〒530 大阪市北区鶴野町4

コーポ野村梅田A-216

☎: 06-375-1070

相談役 重光世洋 [大阪R.C.]

大阪産業大学工学部 教授

〒630 奈良市七条西1-11-19

☎: (H)0742-44-5004

(O)0720-75-3001 (内3711)

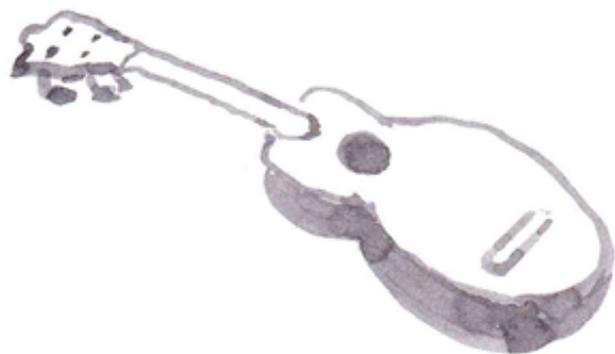
相談役 魏 栢良 [大阪平野R.C.]

大阪経済法科大学

〒567 大阪府茨木市新郡山

2-13-506

☎: 0726-43-6158



米山奨学生学友会（関西）  
1992年度 会計収支決算報告書

自 1992年4月1日  
至 1993年3月31日

収入の部

科 目	金 額	備 考
前年度の繰越金	556,560	
総会の参加費	390,000	
通常会費	60,000	2,000×30名
特別会費	69,000	
寄付金	87,000	
米山奨学会補助金	470,000	
援助交付金	650,000	D-2640 100,000 D-2650 200,000(91,92年度) D-2660 250,000 D-2680 100,000
利息	1,027	
合計	2,283,587	

支出の部

科 目	金 額	備 考
総会費用	410,815	
役員会費	123,614	
交流会費	315,847	
通信費	41,205	
交通費	21,630	
事務用品費	66,183	
広報費用	338,750	
雑費	18,117	
合計	1,336,161	

次年度への繰越金 947,426  
 (現金 ￥236,492)  
 (住友/梅田北口 普通預金 ￥710,934)  
 №1378636

私は、平成4年度（平成4年4月1日から平成5年3月31日まで）における会計の監査を行い、次の通り報告します。

収支決算書、財産目録は会計帳簿及び関係証憑書類の記載金額と一致し、収支状況及び財務状態を正しく示していると認めます。

会計監査 荘園 福松

# 米山奨学生学友会（関西）の1993年度活動報告

米山奨学生学友会（関西） 会長 許 紫 芬

## 1、主な行事

主催行事 米山奨学生学友会（関西）  
1993年度総会及び新入生歓迎会  
ホスト 米山奨学生学友会（関西）  
日時 1993年5月30日（日）  
場所 重慶飯店  
参加人員 94名  
ロータリアン 28名  
OB会員 33名  
新規・継続奨学生 33名  
内容紹介 挨拶、各報告、新入生歓迎会

主催行事 米山奨学生学友会（関西）  
1993年度秋の懇親会  
ホスト 米山奨学生学友会（関西）  
日時 1993年11月7日（日）  
場所 伊賀上野公園紅葉散策  
参加人員 41名  
ロータリアン 3名  
OB会員 17名  
OB会員家族 21名  
内容紹介 種田憲次・武尾敬之助・増本 猛  
委員長挨拶、伊賀忍者屋敷・上野  
城・天理観光農園みかん狩り・石  
上神宮・記念撮影

## 2、参加行事

参加行事 米山奨学生レクリエーション  
ホスト R.I.第2660地区  
日時 1993年10月3日（日）  
場所 宝塚大劇場  
参加人員 学友会から代表として20名  
内容紹介 観劇、挨拶、懇親パーティ、  
カラオケ大会

参加行事 米山奨学生歓送会  
ホスト R.I.第2640地区  
日時 1994年2月23日（水）  
場所 ホテル・アミニティー堺  
参加者 学友会会長  
内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想  
発表、修了証書・記念品贈呈、会  
食

参加行事 米山奨学生歓送会  
ホスト R.I.第2650地区  
日時 1994年2月26日（土）  
場所 京都銀行会館  
参加人員 第2650地区内在住OB会員及び  
元カウンセラー  
内容紹介 挨拶、米山学友交流会、終了奨学  
生の紹介、修了証書・記念品贈呈、  
会食

参加行事 米山奨学生歓送会  
ホスト R.I.第2660地区  
日時 1994年3月6日（日）  
場所 阪急ターミナルビル 17F  
ル シェル  
参加人員 学友会から代表として5名  
内容紹介 挨拶、終了奨学生の紹介及び感想  
発表、修了証書・記念品授与・会  
食

## 3、1993年7月4日第1回役員会議

- ①秋の懇親会の方針を決定
- ②総会未参加者へ会報第9号、年度会計報  
告と会費納入振込用紙の送付を決定（7  
月31日に発送済）
- ③その他

## 4、1994年1月29日第2回役員会議

- ①1994年度総会を6月5日に大阪国際交流  
センターで開催することを決定
- ②役員改選事項
- ③その他

## 5、1994年2月25日会報第9号の編集会議 で会報の方針の議論を行った。

## お 知 ら せ

☆前回総会欠席者に会費振込を要請したところ38件の振込がありました。総会時納入の会員と合わせて、計70名。皆様のご協力ありがとうございます。

なお、米山奨学生学友会（関西）の郵便振替口座の口座番号は、平成6年7月から次のとおり変更になりますので、ご案内申し上げます。

口座名称	米山奨学生学友会（関西）		
現在の口座番号	大 阪 9 -	4 3 4 4 9	
新たな口座番号	0 0 9 9 0 - 9 -	4 3 4 4 9	

☆ おめでとうございます！！

王昭文：長女 林芋嘩（りんせんよ）、1994.3.4 誕生  
林珠雪：台湾東海大学文学院助教授 就職



## 編集後記

「米山奨学生（関西）」会報10号をお届けします。今回は、平成5年6月1日から平成6年5月末まで1年間に、当学友会を応援しているロータリアンの寄稿、会員各位が投稿されたもの、学友会の活動報告、並びに会員の動き・ニュースなどを収録しています。

経費節減のために、今号の表紙も前号と同デザイン、同カラーにしました。枚数は若干増えたにもかかわらず、読み易いと長期保存ができるように、紙は良質のものを使用しました。ご覧の通り、原稿の本数がかなり増加したと共に、中身は、会員各位のご協力で、いっそう成長し、充実しております。早くから原稿をお送りいただいた執筆者のロータリアンおよび会員各位に深く御礼を申し上げます。

なお、当学友会会報についてのご意見やご提案がありましたら、右記の各委員にお寄せ頂くようお願い致します。

### 編 集 委 員

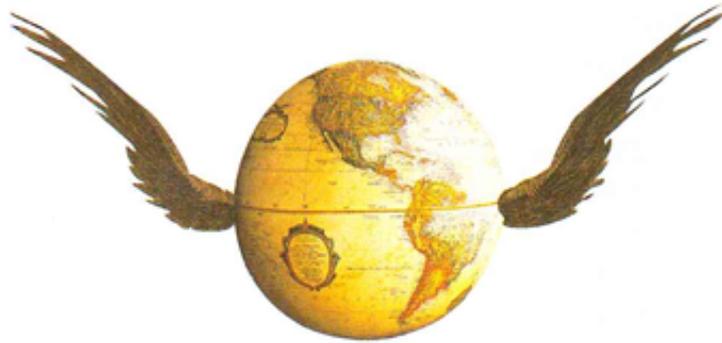
許	紫芬
王	石明
文	燕友
劉	嘉雄
尹	淑鉉
吳	賢龍
韓	賢燮
王	充志



# 会 員 一 覧

重光世洋	00066	松井仁淑	01884	柳政和	03367	李炳男	04066	黄鎮杰	04095
中山勝富	00168	鄧尚昇	01893	齊慧藝	03373	吳賜金	04070	金普漢	04096
上條勝常	00170	張國中	02048	張韓模	03376	白丙基	04071	金憲泰	04097
林錫璋	00204	鄭晶心	02068	鄭錫贊	03377	王旭志	04074	金高男	04098
香島明雄	00235	李鴻儒	02069	蕭春蓮	03382	安敬温	04076	金容珣	04100
沈沢政男	00262	宋玉福	02072	紀惠珍	03386	韓賢燮	04077	金潤洙	04101
劉孝雄	00352	早川由美	02077	鄭家漢	03389	杭海莉	04078	王昭文	04103
郭顯榮	00372	張謙益	02086	鄭承富	03390	許文九	04079	尹鍾星	04104
郭許瑤琴	00465	福山嘉一	02236	李嬉珍	03394	黄子昇	04080	尹淑鉉	04105
德山卓也	00497	河允姬	02253	莫素微	03397	權奇澤	04081	徐貴淑	04186
清河雅孝	00577	辛嘉靖	02260	王石明	03399	劉文君	04083	馬燕	04214
林茂宏	00584	田星姬	02351	全玟樂	03401	文錫中	04084	文楚雄	04215
豊田秋雄	00590	陳文亮	02467	洪徳俊	03403	吳敏如	04085	顧澤蒼	04216
林宏作	00596	權貴玉	02475	李暎一	03468	王惠津	04089	宗云	04218
黄文雄	00647	李靜淑	02476	肖敏悟	03503	王憶陵	04090	沈文良	
東正伯	00651	張哲珉	02550	劉景東	03506				
李展龍	00713	陳麗華	02739	王冬兰	03507				
西原正雄	00721	何玉翠	02741	白秀石	03508				
李寧允	00729	林琇春	02747	李東堡	03510				
宮崎幸珍	00734	朴美子	02750	張世蘭	03713				
高本智正	00967	朴誠國	02751	黄蘭翔	03722				
李一吉	00968	金東周	02777	林妙音	03727	ホイン・クワン・カイ			00718
魏栢良	00972	李東翊	02783	林云鉉	03728	ファン・ドック・ロイ			00985
莊園福松	00975	梁官洙	02788	申贊浩	03730	トラン・コン・ティエン			01139
小林裕生	00984	姜兌欣	02791	蘇瓊媛	03731	バハードル・サルダール・カーン			01258
鄧蒼嵐	01068	朴鐘祐	02793	鄭寅謨	03735	シャルマ・アダルシュ・バラ			01260
黄光前	01109	王充志	02796	崔慶昊	03736	フィーノ・ジュゼッペ			01274
大田一博	01122	吳淑芬	02798	李起子	03738	ベリーニ・リノ			01308
南俊彦	01135	陳士昌	02808	王幸珍	03742	アシュリー・ファラマルツ			01850
武田維明	01140	藤森信一	02987	黄元燮	03744	藤原エミリオ			01891
張壁東	01266	金秀芝	02992	林善姬	03745	モータメド・エクテサビ, ミトラ			01906
鍾雲海	01279	蕭麗幸	03022	金孝仙	03748	アディカリ, バドリ・ナート			02065
林克龍	01385	梁貞模	03029	譚珊珊	03751	ウダガマ・スマンガラ			02083
吳賢龍	01409	劉美京	03032	金寶英	03752	チャンドララール, ディリーブ			02483
廖登稔	01440	劉泰均	03041	謝淑蓉	03785	リー・ケン・チョアン			03170
蘇顯揚	01456	文兌景	03051	金東洛	03810	ロレンゾ, エスベランザ・セシリア S.			03362
羅成純	01467	蔡錦玲	03054	黄曉芬	03840	ウエルク, テコラ			03383
李惠玲	01538	李炳魯	03057	楊克儉	03841	ザヤニ・モハメッド・ヘディ			03400
文燕友	01549	蔡秀娟	03059	金力	03843	ブラダン, ジャヤ・ラム			03405
石田光雄	01588	侯小南	03131	莫明春	03844	ブラロップクール, アスチャー			03617
車季南	01700	包承柯	03137	劉雨珍	03847	リム・チン・チョウ			03749
黄晨昌	01704	焦然	03143	汪俊	03848	ブラダン, スティール・ラマン・ラル			03753
劉明治	01709	余松姬	03261	林源輝	03981	シュレスタ, ディネス・ブラサド			03754
林小微	01718	車承厚	03352	陳怡脚	04054	ビエンチャムロエン, ソンサック			04032
丁玉麟	01735	韓三建	03357	江國平	04055	チョン・クン・ティー			04093
吳俊雄	01739	姜惠楨	03358	韓相乙	04059	ダタン, マリア・リン・キハダ			04108
徐素瑛	01752	具剛	03359	任喜敬	04062	三浦ニュートン清隆			04109
李正哲	01876	王永文	03364	姜惠京	04063	タバオ, ヘンリー・アグレス			04110
山岡由佳	01880	王桂香	03365	金泰一	04064	モハマッド, モキルール・イスラム			04197

★1993年までのOB会員★ もしもお名前が漏れていましたら、ご一報下さい。



ROTARY  
YONEYAMA  
SCHOLARSHIP  
ALUMNI  
ASSOCIATION